

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)坂戸市関間四丁目計画 新築	階数	15F
建設地	坂戸市関間四丁目93-7,101-19	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	327 人
地域区分	G地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2022年3月18日
敷地面積	2,293 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社長谷工コーポレーション 後藤 陽菜
建築面積	939 m <sup>2</sup>	確認日	2022年3月18日
延床面積	9,773 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社長谷工コーポレーション 後藤 陽菜



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 79%

③上記+②以外の 79%

④上記+ 79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3.5

Q3 室外環境(敷地内): 2.5

LR1 エネルギー: 4.0

LR2 資源・マテリアル: 3.0

LR3 敷地外環境: 2.9

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項	
総合	省エネルギーや環境負荷の軽減を考慮しつつ、敷地内の防犯や利便性、室内の快適性に配慮した計画としている。
その他	特になし
Q1 室内環境	二重壁によりDr値50を目標値として設定。一重サッシには複層ガラスを採用
Q2 サービス性能	床材などは清掃しやすい素材(共用部: タイル貼り)を使用し、極力段差のない計画とする。
Q3 室外環境(敷地内)	建物の配置、形態、植栽を地域環境や街並みとの調和に配慮した計画としている。緑化率39.55%
LR1 エネルギー	線熱回収型エコジョーズ、LED照明を共用部すべてに採用。
LR2 資源・マテリアル	二重床・二重天井を採用し資源の再利用に配慮している。
LR3 敷地外環境	駐輪台数を戸数の200%確保し、交通負荷の抑制を図った。LCCO <sub>2</sub> 削減率21%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)坂戸市関間四丁目計画 新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		<b>-</b>	<b>3.5</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.4</b>	1.00	<b>3.3</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.9</b>	0.50	
1 開口部遮音性能		住戸部分には二重サッシを採用し、T2以上の遮音性能を確保した。				<b>3.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能		界壁の壁厚を200mm以上とし、二重壁によりDr-50を目標値に設定				<b>3.0</b>	-	<b>4.0</b>	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	
1.3 吸音						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.2</b>	0.35	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.7</b>
2.1 室温制御						<b>2.2</b>	0.50	<b>4.0</b>	1.00	
1 室温		断熱等性能等級4				<b>3.0</b>	0.63	<b>-</b>	<b>-</b>	
2 外皮性能						<b>1.0</b>	0.38	<b>4.0</b>	1.00	
3 ゾーン別制御性						<b>3.0</b>	-	<b>-</b>	<b>-</b>	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	<b>-</b>	<b>-</b>	
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30	<b>-</b>	<b>-</b>	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.0</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.7</b>
3.1 昼光利用						<b>2.4</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光率		居室昼光率:2.6%				<b>2.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50	
2 方位別開口						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20	
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光制御		カーテン及びバルコニー庇の組合せで制御				<b>2.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	<b>-</b>	<b>-</b>	
3.4 照明制御						<b>1.0</b>	0.25	<b>-</b>	<b>-</b>	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質						<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
2 自然換気性能						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
4.3 運用管理						<b>-</b>	-	<b>-</b>	<b>-</b>	
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>-</b>	-	<b>-</b>	<b>-</b>	
2 喫煙の制御						<b>-</b>	-	<b>-</b>	<b>-</b>	
<b>Q2 サービス性能</b>						<b>-</b>	<b>0.30</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.3</b>	0.40	<b>4.2</b>	1.00	<b>4.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		各住戸にGbitのブロードバンドが利用可能				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
2 高度情報通信設備対応						<b>3.0</b>	-	<b>5.0</b>	1.00	
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	1.00	<b>-</b>	<b>-</b>	
1.2 心理性・快適性						<b>4.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
2 リフレッシュスペース						<b>3.0</b>	-	<b>-</b>	<b>-</b>	
3 内装計画		コンセプトに沿った素材選定、パース検証を行っている				<b>4.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30	<b>-</b>	<b>-</b>	
1 維持管理に配慮した設計						<b>3.0</b>	0.50	<b>-</b>	<b>-</b>	
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50	<b>-</b>	<b>-</b>	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.30	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	<b>-</b>	<b>-</b>	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80	<b>-</b>	<b>-</b>	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	<b>-</b>	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.5</b>	0.30	<b>-</b>	<b>-</b>	
1 躯体材料の耐用年数		住宅性能表示制度 構造躯体劣化等級3を満たす				<b>5.0</b>	0.20	<b>-</b>	<b>-</b>	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	<b>-</b>	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		ビニルクロス貼り20年にて評価				<b>4.0</b>	0.10	<b>-</b>	<b>-</b>	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10	<b>-</b>	<b>-</b>	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管:硬質ポリ塩化ビニル管(B) 汚水管:硬質ポリ塩化ビニル管(B) 雑排水管:硬質ポリ塩化ビニル管(B)				<b>4.0</b>	0.20	<b>-</b>	<b>-</b>	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>2.0</b>	0.20	<b>-</b>	<b>-</b>	
2.4 信頼性						<b>2.4</b>	0.20	<b>-</b>	<b>-</b>	
1 空調・換気設備						<b>1.0</b>	0.20	<b>-</b>	<b>-</b>	
2 給排水・衛生設備						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	<b>-</b>	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	<b>-</b>	
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	<b>-</b>	
5 通信・情報設備						<b>2.0</b>	0.20	<b>-</b>	<b>-</b>	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.4</b>	1.00	<b>2.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				-	<b>1.8</b>	0.50	
1 階高のゆとり			1.0	-	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	-	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		断熱等性能等級における等級4を取得	<b>3.9</b>	0.20	-	-	<b>3.9</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.86	<b>4.8</b>	0.50	-	-	<b>4.8</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.9</b>	0.60	-	-	<b>2.9</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+軽鉄+仕上げ材のディテールを採用している、LGS工法により内装材と設備を容易に取り外すことができる	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法の対象物質を含有しない建材種別が1つある	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		基準値を満たす断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出率79%	<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.4</b>	0.33	-	-	<b>2.4</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			3.0	0.50	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>1.6</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート









■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)坂戸市関間四丁目計画 新BEE	1.3	BEEランク	★★★
------	---------------------	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.8	+	2.0	=	5.8	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.8
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.8
<配慮した内容を記述> CO2排出率79.35%			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
<配慮した内容を記述> 特に無し。			

: 入力欄